

第8回進化経済学会学会賞決定のお知らせ

2023年9月18日

進化経済学会賞選考委員会

授賞作品タイトル：『社会をつくった経済学者たち：スウェーデン・モデルの構想から展開へ』名古屋大学出版会 2022年

著者名：藤田菜々子

授賞理由

<本書の概要>

本書の研究領域は経済学説史に分類されるが、狭い意味での理論史研究ではない。ヴィクセルやカッセル、ヘクシャー、ミュルダール、オリーン等を代表とする、いわゆる「ストックホルム学派」の通史を描くと同時に、ストックホルム学派の「第1世代」から「第2世代」の人間関係および同学派以外の研究者との人的交流（例えばケインズ）が活写されている。また、短命に終わった同学派の終焉までもが生き活きと描かれている。学説史だけでなく、ある種の群像劇でもあり、スウェーデン社会に関心を持つ一般読者にも開かれている良書である。

また、本書はスウェーデン社会の形成に、ストックホルム学派の経済学者がどのように関与したかが、同学派が直面した第2次世界大戦前後のスウェーデンの経済状況および政治状況と合わせて重層的に描かれている。これによって同学派がスウェーデン・モデルの形成、スウェーデン社会の形成にいかに強く継続的な影響を与えたかを明らかにした。

<本書の意義>

本書の学術的意義は2点あると考えられる。第1に、葛藤・対立を含む経済学者間の議論が、スウェーデン・モデルの形成・進化にとって重要な意味を持っていた、という指摘である。本書で登場する経済学者は、ほとんどが政治的主張を有しており、端的に言えば社民主義と自由主義の緊張関係が見いだされる。こういった政治的背景を有した中での議論は、例えば、社会民主主義の側に「自由選択社会」のような新規性のある構想を生み出す<進化圧>として作用したのではないだろうか。すなわち、経済学者集団の間の葛藤・対立が社会

のあり方の「進化」にとって重要だったのである。思想や政策構想の進化という観点からウェーデン・モデルとした場合に、極めて重要な特質であり、本書の中でもっと注目されても良かったと考える。

第2に、スウェーデン経済学の特徴が、理論的な優越性にとどまらず、その公的議論への積極的貢献にあるということを明らかにしていることにも大きな意義がある。ヴィクセルをはじめとする経済学者の理論的優越性はよく知られている。しかし、彼らが一貫して公的議論に深く関与してきたということは、北欧研究にとっても重要な知見である。

<本書の課題>

他方、本書には課題も残る。1点目は経済学者それぞれの理論・思想に深く立ち入らず、相互の交流と政策形成への関与に焦点を当てている点である。これは本書の魅力であるが、経済理論の展開に対する検討、具体的には経済学に対するストックホルム学派の理論的貢献が曖昧になるという弱点となる。

本書のサブタイトルに「スウェーデン・モデルの構想から展開」とあるにもかかわらず、狭い意味での「スウェーデン・モデル」つまり「レーン=メイドナー・モデル」に対する検討が希薄である、という点が2点目の課題である。レーン・メイドナーモデルがスウェーデン・モデルの骨格を作っていることを踏まえると、両経済学者に関する本格的な検討がぜひ欲しかった。彼らは労働組合LOのエコノミストであった。これは、「モデル」の構想にとってどういう意味を持ったのか？また、彼らが在野の研究者で、アカデミアに属していなかったことはどういう意味を持つのか？こうした問題はスウェーデン・モデルを経済学史的に理解する上で避けて通れない議論ではなかっただろうか。

課題の3点目は、今日の経済学の発展との関連性に関する議論である。本書ではアカデミアの経済学者たちが「社会を作る」という役割を論じた。本書が対象とした時代と現代との、経済学者の社会構築に関する関わりについての連続性、断絶についての議論が欲しかった。今日では、社会のグランドデザインを経済学者が議論することはほとんどなくなった。代わりに Google や Amazon などのアカデミアの外で活動している企業が博士号取得者を雇い、経済学的なツールを駆使して「静かに」社会を変えているように見える。こういった今日的情況を本書でも議論しておく、より魅力的な研究となったように思われる。

<まとめ>

これまで、評価できる点と課題を縷々述べてきた。本書は直接には進化的概念、ツールおよび方法を利用しているわけではない。しかしながら、本書の評価でも述べたように、ストックホルム学派内の学術的交流、また同学派とそれ以外の研究者の知的交流、同学派とスウェーデン社会の相互作用は社会学習であり、進化的概念で捉えられると言ってよい。そう考えるならば、本書は進化経済学の射程に自然と収まるものであり、2023年度の進化経済学会・学会賞にふさわしいと考えられる。

*なお、併せて審査を行いました第4回進化経済学会奨励賞は該当者なしとなりましたことを申し添えます。